



# 和's YAMATO (わずやまと)

2020  
夏号

● 写真で楽しむ 群馬の観光スポット

● お客様紹介 Gメッセ群馬

● 群馬の芸術家 須藤和之氏

● 郷土史跡めぐり 築瀬二子塚古墳

沼田藩主・土岐氏と  
明智光秀の深い関係  
明智光秀と信長の  
強固な主従関係

《戦国史クローズアップ》



「石榴の花」 須藤和之 画

(ヤマトビオトープ園昆虫の棲家周辺)

# 明智光秀と信長の強固な主従関係

## 天下統一に向け重要な役割担う

### 琵琶湖西岸に坂本城を築城

元亀元年（一五七〇）六月、朝倉・浅井連合軍は姉川の戦いで信長軍に敗れたが、同年九月には体制を立て直し、比叡山に陣を構える。信長は比叡山延暦寺に中立を守るように要請し、従わなければ焼き討ちすると通告するが、延暦寺はそれを看過した。その結果、朝倉・浅井連合軍が有利に戦いを進め、信長は講和を受け入れざるを得なくなる（志賀の陣）。翌年、信長は延暦寺を焼き討ちする。光秀は比叡山焼き討ちに反対したとするのが通説だったが、最近の研究では、光秀は信長の命令に従い、忠実に実行したという。その恩賞により、光秀は近江志賀郡を与えられたと考えられている。

光秀は信長から琵琶湖西岸の坂本に築城することを許可され、光秀は二国一の城の主となる。秀吉が琵琶湖岸の長浜に築城するのはこれより二年後で、秀吉よりも一足早い出世となった。



天正一〇年（一五八二）、明智光秀は本能寺の変で織田信長を自害に追い込むが、元亀三年（一五七二）には信長から築城を許され、天正八年（一五八四）には丹波の国を領有して信長軍の要職にあった。琵琶湖西岸や丹波地方には、信長とともに天下統一に大きな役割を果たした光秀の足跡が残っている。



坂本城跡公園(大津市下阪本)

城内に琵琶湖の水を引き入れた水城で、大天守と小天守を持ち、その姿は非常に豪壮であったという。坂本城を築城したのは、比叡山の監視に加え、西近江路の要衝の地であることと、3つの港がこの地にあったからだ。琵琶湖の水運に目を付けていた信長は、後に長浜城、安土城、大溝城の水城4城を築城し、琵琶湖の水運支配を完成させた。城址公園には光秀の像がある。



比叡山延暦寺(大津市坂本本町)

比叡山延暦寺は延暦7(788)年、天台宗の開祖・最澄が開いた寺院。仏教教学の中心的存在として栄え、僧兵と呼ばれる武装する下級の僧侶を有していた。僧兵強訴(神仏の権威を背景とした要求など)を行い、朝廷にも影響力を及ぼしていた。信長による焼き討ちの被害は定かではなく、寺領・社領は信長に没収され、光秀など家臣に分け与えられた。

### 信長の勢力拡大に貢献

元亀三年（一五七二）九月、織田信長は、足利義昭の反動的な行動に不満を持ち、その行状を十七条の異見書として義昭に突きつけた。これを不服とする義昭は、武田信玄、上杉謙信、毛利輝元などとともに、信長包囲網を敷いた。同年十月、信玄は遠江と三河攻略のために進軍し、十二月には三方ヶ原の戦いで織田・徳川連合軍に大勝利した。信玄はこの勢いで上洛するかに見えたが、翌年の天正元年（一五七三）四月、病に冒され、この世を去った。

後ろ盾を失った義昭は、琵琶湖西岸の今堅田（いまかただ）に砦を築き信長に抵抗するが、光秀が水軍を率いて湖上から攻撃し、義昭の砦を撃破した。光秀はかつて義昭に仕えていたが、自らが義昭を攻め、信長の天下統一に大きな役割を担うこととなる。義昭は京都・宇治の填島城（まきしまじょう）に立てこもるが、光秀らの信長軍に包囲され、あえなく降伏し、京都から追放された。義昭は安芸の鞆の浦に逃れて再起を期すものの、諸大名からは距離を置かれ、その影響力は薄れていた。



お牧の方の墓所(岐阜県恵那市)

光秀の母・お牧の方が悲運の最期となったことを哀れんだ里人が作ったといわれている。樹齢400年の高野槇(写真左)が墓標となっている。

### 丹波平定を成し遂げ領地を拡大

天正三年（一五七五）、信長は足利義昭を追放し、自らが天下を治めるために、丹波地方の攻略に着手する。丹波での反信長勢力の中心となっていたのは黒井城（兵庫県丹波市）の荻野直正で、ここを叩けば丹波全体が信長に臣従するとの戦略だった。光秀は八上城（兵庫県丹波篠山市）の波多野秀治を味方にして黒井城を攻めたが、防備が固く落とすことができなかった。翌年

の天正四年に、味方だった波多野氏が裏切り、荻野方についたため黒井城攻めを中断し、戦略を変えなければならなかった。

天正六年、光秀は丹波に再出陣したものの、信長に背いて謀反を起こした荒木村重の征伐に出陣するなど、丹波攻略は遅々として進まなかった。同年の十二月には八上城攻略のため兵糧攻めを実行し、翌年の天正七年十月に落城寸前までこぎつけた。光秀は波多野一族に危害を加えない証として母のお牧を人質に差し出していたので、波多野氏は信長に恭順の意を示すために安土城に向かった。ところが、信長は波多野氏を切腹させたため、その報を聞いた八上城の残兵は報復のためお牧を殺害。光秀の状況を顧みない信長の所業で母親を失ったことは、本能寺の変を起す一因になったとする伝説が残っている。

天正八年（一五八〇）八月、丹波を平定した光秀は、西国攻略の拠点として福知山城を築城した。城下町を整備し、治水のための堤防を築き、税金を減免するなど領民に善政を施し、「謀

反人」のイメージとは異なり、今でも市民に敬愛をもつて慕われている。

参考文献 信長公記



福知山城の遠景



福知山城復元天守(京都府福知山市)

福知山城は明治時代のはじめに廃城令で取り壊され、石垣と番所だけが残されていたが、昭和61年（1986）11月に市民の瓦1枚運動などの熱意によって、3層4階の天守閣が再建された。石垣は築城当初の面影を残し、野面積み、乱石積み、穴太積みなどと呼ばれる自然石をそのまま用いた豪放な構造で、強固な石垣が組み上げられている。

# 麒麟がくる 登場人物

(新型コロナウイルスの感染拡大防止のため収録を見合わせており、放送は2020年6月7日(第21回)をもって一時休止です。)

## 明智光秀

(長谷川博己)

美濃の明智家は下級武士であったが、光秀は勇敢でありながら知力も高く、美濃を支配する斎藤道三に見いだされ家臣となり、重要な働きをする。道三が戦に敗れ光秀は主君を失うが、織田信長に出会うことで運命の歯車が動き出す。

## 明智家

<b>鷗子</b> (木村文乃) 光秀の正室。美濃の土豪・妻木氏の娘。光秀を支える女性。	<b>牧</b> (石川さゆり) 光秀の母。光秀が幼い頃に亡くなった父代わりとなって成長を見守る優しい母。	<b>明智光安</b> (西村まさ彦) 光秀の叔父(父の弟)。明智家の当主で、道三の家臣。明智家の将来を心配している。	<b>藤田伝吾</b> (徳重 聡) 明智家に仕える家臣。戦では武功を上げ、光秀を慕っている。	<b>常</b> (生越千晴) 明智家の下女。
				<b>木助</b> (水野智則) 明智家の家人。

## 織田家

<b>織田信秀</b> (高橋克典) 織田信長の父。尾張で道三や駿河の今川と覇権争いをしていく。	<b>織田信長</b> (染谷将太) 光秀が尾張で出会う信秀の嫡男。天下統一を目指し光秀も手腕を発揮する。	<b>織田信光</b> (木下ほうか) 織田信秀の弟。	<b>土田御前</b> (檀 れい) 織田信秀の継室で、信長とその弟・信勝(信行)の生母。幼少時には周囲からうつけと思われていた信長を嫌い、弟の信勝をかわいがる。	<b>平手政秀</b> (上杉祥三) 信秀を支える織田家の老臣。信長のもり役。
		<b>織田信勝</b> (木村了) 織田信長の弟。		

## 斎藤家

<b>斎藤道三</b> (本木雅弘) 美濃の守護代で光秀の主君。亡父とともに親子二代で美濃の国を支配しようと目論む。軍事、政略に長けている。	<b>斎藤義龍</b> (伊藤英明) 道三の嫡男。自らの出自に疑問を持ち、父とはわだかまりがある。光秀とは幼少期から交流がある。	<b>帰蝶(濃姫)</b> (川口春奈) 道三の娘。光秀とは姻戚関係がある。政略結婚により、のちに織田信長の正妻となる。	<b>斎藤孫四郎</b> (長谷川 純) 斎藤道三の次男。	<b>稲葉良通</b> (一鉄) (村田雄浩) 斎藤道三有力家臣の一人。はじめ土岐頼芸の家臣であったが、のちに道三の家臣となった。	<b>深芳野</b> (南 果歩) 斎藤道三の側室。
		<b>斎藤喜平次</b> (犬飼直紀) 斎藤道三の三男。	<b>小見の方</b> (片岡京子) 斎藤道三の正室。		

## 今川家

<b>今川義元</b> (片岡愛之助) 「海道一の弓取り」の異名を持ち、道三たちがあびえる東海最強の戦国武将。	<b>太原雪斎</b> (伊吹吾郎) 今川義元の軍師。青年期から義元に仕え、今川家の隆盛に大きく貢献した。	<b>足利義輝</b> (向井 理) 室町幕府第13代将軍。	<b>足利義昭</b> (滝藤賢一) 13代将軍足利義輝の弟。義輝亡き後、室町幕府最後の将軍となる。	<b>三淵藤英</b> (谷原章介) 室町幕府幕臣。	<b>細川藤孝</b> (幽斎) (真島秀和) 室町幕府幕臣。
---	---	--------------------------------------	--	----------------------------------	--

## 松平家

<b>松平広忠</b> (浅利陽介) 松平竹千代の父。	<b>松平竹千代</b> (岩田琉聖) 松平広忠の嫡男。家康の幼少期。	<b>徳川家康</b> (風間俊介) 三河の戦国大名で織田信長と同盟を結ぶ。
<b>放火</b> (松本若菜) 松平竹千代の母。	<b>水野信元</b> (横田栄司) 松平竹千代の伯父。	

## 京の人々

<b>駒</b> (門脇 麦) 医師・東庵の娘で、光秀とは京で出会う。伝説のいきもの麒麟の存在を信じている。	<b>望月東庵</b> (堺正 章) 京在住の医師。朝廷や各地の戦国大名などに特殊な人脈がある。光秀を導く存在。	<b>伊呂波太夫</b> (尾野真千子) 旅芸人一座の女座長。	<b>伊平治</b> (玉置玲央) 鉄砲づくりの職人。	<b>土岐頼純</b> (矢野聖人) 帰蝶の最初の夫。
--	--	---------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

## 土岐家

<b>土岐頼芸</b> (尾美としのり) 美濃の守護職。道三と結託して兄を守護の座から追放し、家督争いをしたことがある。
--

## 尾張の農民

<b>木下藤吉郎</b> (佐々木蔵之介) のちの秀吉。身分が低かったものの、信長の家臣として頭角を現していく。光秀生涯のライバル。
--

## 三河農民

<b>菊丸</b> (岡村隆史) 光秀が美濃で出会う三河出身の農民。光秀の危機に姿を現して援助する。
--

## 室町幕府管領

<b>細川晴元</b> (国広富之)
-----------------------

## 摂津の守護代

<b>三好長慶</b> (山路和弘)
-----------------------

## 三好家家臣

<b>松永久秀</b> (吉田鋼太郎)
------------------------

# 沼田藩主・土岐氏と明智光秀の深い関係

## 沼田市所蔵の古文書に定政と「いとこ」の記述

土岐氏は清和天皇の皇子・諸王を祖とする清和源氏の一族で、南北朝時代から戦国時代にかけて美濃国の守護を務めた武家の名門です。土岐定政は明智氏の一族で、明智を名乗っていました。徳川家康に仕えて数々の武功をあげたことから、土岐の家名継承を許されたこととされ、江戸時代に定政の子孫は沼田藩主となりました。

二〇二〇年二月八日に沼田市歴史資料館で「明智光秀からの贈り物」と題する講演会が行われ、明智光秀と土岐定政はいとこだったとする古文書が紹介されました。講師は元群馬県立歴史博物館次長の小野瀬和男さんで、江戸期に書かれた土岐家の文書「土岐定政伝」「定政伝記」を小野瀬さんが解説したところ、「定政と光秀はいとこ」とする記述がありました。古文書に

記述された「いとこ」という表現がどこまでの範囲なのか、まだ研究の余地があるというのですが、沼田市に所蔵されている資料から、光秀と定政に関して新たな発見があったことは意義深いと思います。

(株)ヤマト広報室 木下 記



沼田市歴史資料館で講演する小野瀬和男氏

## 明智光秀 略年表

大永8年(1528)	この年代の出生と推定されている。明智光秀生誕の地が複数ある
永禄11年(1568)	織田信長に仕える。足利義昭が室町幕府15代将軍に
永禄13年(1570)	金ヶ崎の戦いで殿(しんがり)を務め敵の追撃を防ぐ
元龜2年(1571)	信長に従い比叡山焼き討ちを実行
元龜3年(1572)	琵琶湖畔に居城となる坂本城を築城
天正元年(1573)	足利義昭が立てこもる埴島城攻めに参戦
天正2年(1574)	信長とともに東美濃に出陣
天正3年(1575)	丹波方面の攻略の任にあたる
天正4年(1576)	妻の熙子が死去
天正5年(1577)	細川藤孝らと大和片岡城を攻略
天正6年(1578)	娘の玉子(ガラシャ)が細川家に嫁ぐ
天正7年(1579)	丹波氷上(ひかみ)城を攻める
天正8年(1580)	信長から丹波の国(29万石)を与えられる
天正9年(1581)	京都馬揃えの責任者となる
天正10年(1582)	安土城で徳川家康の接待役を務める。光秀が信長を襲撃する本能寺の変で信長は自害。秀吉らの軍勢と京都の山崎で戦闘となり敗北、落ち武者狩りで敗死。

(参考資料:麒麟がくる 明智光秀とその時代 NHK出版発行)

# 築瀬二子塚古墳

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員 山中 豊

築瀬二子塚古墳は六世紀初めに碓氷川流域に造られた前方後円墳で、東日本で最も早く横穴式石室を取り入れた古墳の一つです。平成三十年十月に国指定史跡となりました。



国指定史跡 築瀬二子塚古墳



ガイダンス棟内の掲示物

築瀬二子塚古墳は、古墳時代後期初頭（六世紀初頭）、周辺の地域に初めて登場した大型前方後円墳で、この地域一帯を支配した有力者の墓と推測されています。古墳の埋葬部分は、横穴式の石室で、上野地域、さらには東国において、それまでの時代の古墳では、堅穴式の埋葬施設が、横穴式石室に移り変わる最初の頃のものと考えられ、学術的にもとても重要な古墳です。

墳丘は、主軸をほぼ東西に取った二段築成の前方後円墳です。墳丘の法面には上段、下段ともに葺石が施されていました。墳丘の全長は八十m、後円部径四十八m、前方部の幅は六十三mに及びます。墳丘の周囲には盾形の周堀がめぐらされ、その周囲を周堤がめぐり、さらにその外側に外周溝があったことが確認されています。外周溝が全周したと考えると、古墳全体の規模は総長約一三〇m、全幅は約一〇mになると推測されます。

墳丘の基壇面上及び頂上部では、埴輪列が確認されています。そして石室からは、鉄製品馬具・装身具・土器などの様々な副葬品が出土しました。特徴的な遺

物としては、金装三連ガラス玉、花卉形杏葉、垂飾付耳飾などがあります。これらは朝鮮半島や畿内との関わりが考えられる遺物であり、古墳の築造技術や被葬者の性格を考える上で重要なものと言えます。

築瀬二子塚古墳は、安中市により平成二十三年度から二十六年度にかけて保存整備が実施され、平成二十七年七月から築瀬二子塚古墳ガイダンス棟と共に史跡として公開されています。高崎から軽井沢方面へと向かう国道十八号線の「築瀬二子塚古墳入口」交差点から南への緩い坂を三〇〇m程下った道沿いの西側に古墳、東側にガイダンス棟と駐車場があります。二段築成の墳丘を上り後円部の上に立つと、穏やかな人々の暮らしが感じられ、周辺の街並みの先には、妙義、浅間、榛名、赤城の名山を望むことができます。きれいに管理されたガイダンス棟には、古墳についての解かりやすい説明が掲示されています。また、墳丘を上空から回るように眺めたり、石室への出入りを体験したりしているように感じられる立体感のある動画など、映像での説明も充実して

います。出土遺物は安中市学習の森ふるさと学習館に展示されています。

この古墳の確認は明治十一年、明治天皇の北陸・東海御巡幸の際に行われた沿道古蹟調べにまで遡ります。翌明治十二年四月四日、古墳の所有者の長子であった小森谷啓作が発掘を行い、石室を開口させました。後円部頂上には発掘の経緯等が記された石碑が、小森谷啓作によって立てられ、出土した副葬品は小森谷家により大切に保管されてきました。その後の群

馬大学や安中市教育委員会による発掘調査を経て、保存整備が実施され、国指定史跡となり現在に至っています。

実は、小森谷啓作は私の曾祖父です。母を通して祖母から伝え聞いたところによれば、啓作が、明治十二年の春に、古墳で大それた発見をする夢を三晩続けて見たことで「これは、ご先祖様のお告げに違いない」と感じ、発掘を決心することになったのだそうです。また、石室を開口させるに及んでは、逸る気持ちを抑えなが

ら、ろうそくの灯で通気を確認しつつ、ゆつくりと進み、副葬品の発見に至ったと聞いています。当時啓作の目に映った石室の姿を知ることができませんが、それをイメージしながらガイダンス棟展示の、石室入り口から狭い羨道を階段状に降り玄室へと進む映像を観てみるのも良いかもしれません。

今回この紹介をさせて頂くにあたり、久しぶりに改めて古墳を訪れてみました。地域一帯を支配していた有力者と考

えられる被葬者、そして発掘をした小森谷啓作、それぞれの思いを想像しながら墳丘の上に立ち、美しい山々、遠く広がる景色を眺めると、薫風が優しく頬の傍らを通り抜け、せわしない日常から解放された爽快感を味わうことができました。皆さんも一度、ここに立つてみてはいかがでしょうか。

参考文献  
「築瀬二子塚古墳の世界」安中市学習の森ふるさと学習館  
小森谷啓作著「尚翁茶話」秋岡古文書同好会



墳丘前方部の一部と妙義山



築瀬二子塚古墳ガイダンス棟



ガイダンス棟内の映像表示画面



墳丘後円部

# 須藤和之

## ふるさととの風と季節を描く日本画家

元群馬県立近代美術館学芸員 染谷 滋

### 『和・S・YAMATO』の表紙画

本誌の表紙には二〇一七(平成二九)年の春号から、美しい日本画が描かれている。モチーフは全てヤマトのピオトープから取られ、作者は前橋在住の須藤和之である。

そのきっかけは、二〇一六年の秋にヤマトギャラリーで開催された「須藤和之展」だった。四季のうつろいと題された個展には五四点もの作品が並び、県内の人々に須藤和之を紹介するよい機会となった。表紙画をはじめとした作品についてはまた述べる機会もあるだろうから、今回は作者の須藤和之について紹介したい。

### 宮城村から多摩美術大学へ

須藤和之は一九八一(昭和五六)年一〇月八日、宮城村鼻毛石(現・前橋市)で生まれた。全国的にも珍名に属する地名だが、祖父の代から椎茸栽培を行なう農家だった。赤城南面の豊かな四季に恵まれた環境だったと書けばその通りだが、同時に厳しい自然の姿をも肌で感じ、そこで生活し続ける人々に対する共感も培ったに違いない。

画家の年齢としてはまだまだ若い須藤が、強さと

優しさを内に秘め、大家のような落ち着きを持って群馬の風景を描き続けている姿に、私は驚きを隠せないのだが、その成熟の秘密は故郷の自然にあるのだろう。

前橋南高校に通った三年間は、片道二五kmの道のりを自転車で通学し続けた。往路は一時間かからずに着いたというが、帰路の苦労はさぞかしだったろう。家業を継がず、美術への進路を選んだのは高校二年のときだった。デザイナーや映像関係も視野に置き、この分野ならやれると判断したそうだ。

もちろん家族の強い反対にはあつたし、大学受験も甘くはなかった。それでも一浪した二度目の受験で、やっと多摩美術大学日本画科の補欠一番で滑り込んだ。

### 東京藝術大学大学院で博士号

当時の多摩美術大学日本画科の教授陣には、市川保道、中野嘉之、米谷清和らが顔をそろえていたが、大学ではもっぱら遊び方や酒の飲み方を教わったと笑いながら話してくれた。

二〇〇五年春に多摩美術大学を卒業すると、東京藝術大学大学院の文化財保存学専攻へと進学する。授業料が安かったからというが、別な理由もあった。須藤が美大進学を目指した際、その受験勉強を手助けたのが前橋の「すいらんアートスクール」だった。文京町にあるこの教室に、須藤は高校の授業が終ると毎日のように通って日が暮れるまで居た。

この画塾の講師陣には本県の美術界を担う魅力あふれるメンバーが集まっていた、中でも須藤が尊敬する彫刻の三輪途道(当時は上原三千代)と日本画の井田昌明が東京藝術大学大学院の文化財保存学専攻を修了していた。基礎を学ぶには保存修復で伝統的技術に触れるのが一番だということを、先輩の背中が教えてくれたのだ。

こうして仏画の模写などを行ない、大学院に五年在籍。二〇一〇年春、見事博士号を取得した。

### 院展での活躍と帰郷

須藤は大学院在学中の二〇〇六年、春と秋の院展に初入選した。院展への出品は、現在の理事長田淵俊夫が大学院の教授に居たことや、先輩の井田昌明が院展に出品していることなどから当然だったろう。

四年前に九〇歳で亡くなった院展の元理事長松尾敏男は、多摩美術大学の名誉教授でもあったが、あるとき須藤の作品を見て「あなたの絵は、あなたの心にあるものを描きなさい」とアドバイスしたという。この言葉は今でも須藤の胸の内に生きている。

大学院を修了してからの須藤の活躍は目覚ましい。二〇一〇年四月のアートフェア東京で市場デビュ

ーを果たすと、五月には東京池袋の東武百貨店で大規模な個展を開催した。私が初めて須藤の作品に接したのもこのときだった。同年二月、前橋の画廊翠戀で県内初個展。以後ほぼ毎年、同所での個展を欠かさない。

二〇一八年二月、それまで住んでいたさいたま市から前橋市六供町へ転居した。一七年ぶりに前橋へとUターンしたのだが、奥さんと娘二人も一緒だった。

### 上毛芸術文化賞受賞

昨年の暮れから今年にかけて高崎市タワー美術館で開催された展覧会「トップランナーIII」は県内で活躍する日本画家四人を紹介する企画展だったが、その中の一番若い作家として須藤が選ばれた。

秋の院展初入選作から横四mもの最新作まで、大作(二〇点とカレンダー原画二四点が美術館の壁に掛けられ、会期中の本人によるギャラリートークも大変な人気だった。

この実績が評価され、令和元年度の上毛芸術文化賞美術部門に選ばれた。

上毛芸術文化賞は二〇〇三年度から上毛新聞社が制定しているもので、「この二年間に目覚ましい活躍を見せ、将来を嘱望される個人」ひとりに対して贈られる賞である。

現在三八歳。株式会社ヤマトをはじめとして、県内の幾つもの企業が応援していることも頼もしい限りだが、チャレンジ精神にあふれる須藤の活躍は、今後ますます期待できるに違いない。



「桃ノ木川の畔」サイズ10号



「風吹く」サイズ20号

#### 略歴 須藤和之 KAZUYUKI SUTOH

- 1981 群馬県生まれ
- 2006 第62回春の院展初入選、再興第91回院展初入選
- 2009 有芽の会(池袋西部)日本更生保護協会理事長賞
- 2010 東京藝術大学大学院博士課程修了博士審査展お仏壇のはせがわ賞特別賞
- 個展(前橋・画廊翠戀)以後毎年
- 中央電機商会&高浦産業カレンダー原画(以後毎年)
- 平成22年度前橋市収蔵美術展「風景の裏側」出品
- 2012 第63回群馬県美術展初入選
- 2013 アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ・未来への対話(アーツ前橋)」
- 2014 群馬銀行創立80周年記念作品「群馬の四季」完成
- 2016 個展「四季のうつろい」(株式会社ヤマト)
- 2017 個展「前橋の風景」(株式会社ヤマト)
- 個展「季節をわたる風」(伊藤忠青山アートスクエア)
- 2018 三菱東京UFJ銀行カレンダー原画
- 2019 古河電気工業株式会社カレンダー原画
- 高崎市タワー美術館「TOP RUNNER III」
- 2020 上毛芸術文化賞美術部門受賞
- 現在 日本美術院院友・慶応義塾大学非常勤講師

# Gメッセ群馬 北関東最大規模コンベンション施設

群馬県高崎市

## Gメッセ群馬の概要

群馬県産業経済部戦略セールス局  
イベント産業振興課 Gメッセ施設係 主幹 浅川秀一郎



群馬県は、「魅力あふれる群馬」の実現を目指し人口減少社会に対応するために様々な取り組みを行っておりますが、その一つとして県内産業の活性化、若者や女性の雇用の増加、さらには交流人口の増加にもつながるコンベンションの誘致やその関連産業の振興を戦略的に進めております。そして、これらの施策を押し進めるための社会インフラとして、「人・モノ・情報」のハブとなるコンベンション施設であるGメッセ群馬を整備しました。

## 施設の特徴

- 上越と北陸の2本の新幹線が乗り入れるJR高崎駅から徒歩約15分の場所に位置し、東京駅から高崎駅までは約50分でアクセスが可能です。
- 11万㎡の敷地に北関東最大の1万㎡の屋内展示ホールと2万㎡超の屋外展示場、1千人収容のメインホールをはじめとする大小17の会議施設を完備しています。
- 国際会議や大規模学会、1万人規模のコンサート、大型展示会、各種イベントなどの開催が可能です。
- 賑わい交流施設として、各種の会議、イベントや展示等により、県民相互が交流する場を提供します。



施設全景



展示ホール



大会議室

今年四月、JR高崎駅東口から徒歩約十五分の高崎競馬場跡地に、北関東で最大規模の展示場・Gメッセ群馬が完成しました。株式会社ヤマトは、空調設備工事を新菱・ヤマト・グンエイ特定建設工事共同企業体として施工し、給排水衛生設備工事をヤマト・パナソニックESSE・グンエイ特定建設工事共同企業体として施工しました。配管はほぼ100%工場加工となっています。建物の特長などの概要は、群馬県Gメッセ施設係主幹の浅川秀一郎氏にご寄稿いただきました。

### 施設概要

- 建物名称 Gメッセ群馬
- 所在地 群馬県高崎市岩押町12番24号
- 構造・規模 鉄骨造、地上4階建て
- 建築面積 1万9917.30㎡
- 延床面積 3万2726.08㎡

## 省エネルギーの取り組み

コンコースやホワイエにはハイサイドライトを設けて自然光を活用、また、照明にはLED、人感センサー等の省エネ技術を採用して電力使用量を低減しています。大規模空間である展示ホールには、赤外線アレイセンサを用いた空調制御システムを採用し、各エリアの負荷に合わせた効率的な空調運転を行っています。

## 施設の設計コンセプト

Gメッセ群馬は、次の4つのコンセプトを掲げて設計しました。

### ① 機能性を重視した施設

- 【立面及び断面計画】
- 会議施設は、大型スクリーンを設置できるように、メインホールの天井高さを7m、大会議室の天井高さを5mとして計画。
- 展示場は、搬出入口の高さを4.5m、床許容荷重を5t/m<sup>2</sup>とし、大型車両による搬出入に配慮。
- 展示場は、天井高さを21m確保し、音楽イベントの開催に対応。
- 展示場の屋根は、フラットな架構として、吊り物が設置し易く、主催者の利便性の高い計画とした。

### 【動線計画】

- 東西軸(コンコース)と南北軸(ホワイエ)を中心とした動線計画。
- 動線を車両(1階)と歩行者(2階)に分離し、来場者の安全を確保。
- 来場者は2階エントランスを中心とし、コンコースを介して展示施設へ、昇降機等によりホワイエを介して会議施設の



メインエントランス2F



メインホール

### ② 群馬らしさや地域景観を活かした施設

- 【内外装計画】
- エントランス吹抜部等に、県産木材(唐松・準不燃処理)のブロックにより、富岡製糸場のレンガ壁と同じフランス積みを意識を表現。
- エントランス部の防風壁を、金属加工パネルで造ることで、群馬県のものづくり技術を表現。
- コンコース及びホワイエの内装は、使用する仕上げ材料や照明などを、縦糸横糸を編むイメージで配置することにより、群馬県の繊維産業を表現。

各階へ動線を展開。

- 搬出入車両はトラックヤードを介して、展示場に直接乗り入れられ、一方通行による搬出入作業が可能。
- 公共交通は、競馬場通り線の出入口から、会議施設の車寄せへアプローチ。

### ③ 自然エネルギーを活かし環境に配慮した施設

- 日照条件の良い群馬県の気候を利用し、展示場の屋根面を太陽光発電に活用。
- コンコースやホワイエにハイサイドライトを設け、自然光を活用して電力使用量を低減。
- 高効率設備機器、LED照明、クールスポット空調、空調の空間センサー制御システム、照明の人感センサー等の省エネ技術を採用。

### ④ 地域防災拠点機能を持たせた施設

- 大地震後に、天井等の建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないよう計画するとともに、設備についても、大きな補修をすることなく、必要な機能を相当期間継続できるように計画。
- 防災拠点(避難所・物流拠点・一時集結地)として十分活用できる施設として計画。
- 帰宅困難者を約4千人と想定し、コンコース、ホワイエ及び会議室を待機スペースとして計画。
- 地域住民の一時避難のため、帰宅困難者と合わせて最大約7千人の受入れを想定。
- 屋外は、自衛隊、消防や警察の、一時集結地としての利用を計画。
- 3日間の稼働を想定し、非常用発電設備を計画。
- 非常時の飲用水を受水槽(108㎡)に貯留。
- 井戸水を災害時のマンホールトイレ(40基)洗浄水として利用。

# 写真で楽しむ 群馬のお花見どころ3 スポット

## 伊勢崎花菖蒲園

写真:『ググっとぐんま写真館』から転載

赤堀花しょうぶ園では、例年6月になると25,000株の花しょうぶが咲きはじめ、6月中旬には約500メートルの遊歩道が白や紫などのしょうぶの花で彩られます。同園は、国指定史跡「女堀」の史跡保存と活用のため、水路跡に花しょうぶを植栽したものです。6月中旬には、「赤堀花しょうぶ園まつり」を開催し、様々なイベントが行われますが、今年はコロナウイルスの感染拡大防止のため休止です。しょうぶ園の遊歩道は木道の老朽化により閉鎖されています。園内のしょうぶは道路から見るすることができます。

住所：群馬県伊勢崎市下触町213

お問い合わせ先：伊勢崎市赤堀支所赤堀経済振興室 電話0270-62-9791(直通)



## 牛伏山自然公園

写真:『ググっとぐんま写真館』から転載

牛伏山は標高491m。牛がしゃがんで伏せているような山の形状から、牛伏山と名付けられたそうです。6月から7月にかけて、林道沿いに植えられた約1,400株のアジサイが見ごろを迎えます。牛伏山の展望台は3階建てで、3階の展望室からは関東平野が一望でき、1・2階は郷土資料などの展示室になっています。また、緑が多く豊かな自然に恵まれた牛伏山一帯は、多種の野鳥が訪れ、バードウォッチングを楽しむことができます。

住所：群馬県高崎市吉井町多比良4457-1

お問い合わせ先：高崎市吉井支所産業課 電話027-387-3111



和's YAMATO (わずやまと) 夏号 (第45号) 2020

【和's yamato】の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water&Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

ヤマトが発信するメッセージです。和's YAMATO 夏号/2020年6月発行

発行：株式会社ヤマト（広報室）群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1891 fax:027-290-1896

建設プロダクト  〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1800(代) fax:027-290-1896

支店 / 東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所 / 軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森  
付属施設 / 大和环境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター

ヤマトホームページ [www.yamato-se.co.jp/](http://www.yamato-se.co.jp/)

